＜＜　注　意　報　＞＞

岡病防第 19 号
令和6年9月11日

各関係機関長　殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察注意報第２号を下記のとおり発表したので送付します。

令和６年度病害虫発生予察注意報 第２号

令和６年９月 11 日
岡　　山　　県

病害虫名　　ハスモンヨトウ

１　発生が予想される地域・作物
　県下全域の大豆、野菜類、花き類など
２　発生の蔓延が予想される時期
　９月上旬から 11 月まで
３　予想される発生量
　多
４　注意報発表の根拠
（１）９月２日から５日までの巡回調査によると、若齢幼虫の食害による大豆の被害葉(白化葉)の県内の**発生ほ場率は 34.8%で平年（8.1%）より高い。**
（２）８月１日から 31 日までのフェロモントラップ(赤磐市)における**誘殺数は 3,569 頭で平年（2,316.3 頭）より多かった。**
（３)広島地方気象台が８月 20 日に発表した向こう３か月の気温は平年より高い見込みであり、**本虫の発生に好適な条件**である。
５　防除対策及び防除上の参考事項
（１）本虫は大豆以外に、雑穀では小豆、野菜ではサツマイモ、サトイモ、キャベツ、ナス、ハクサイ、ダイコン、カブ、レタス、ネギ、トマト、ピーマン、ニンジン、イチゴ、アスパラガス、ブロッコリー、果樹ではブドウ、カキ、カンキツ類、花きではキク、バラ、シクラメンなど広範な作物を加害する。
（２）若齢幼虫が群生している被害葉(白化葉)を切り取って処分する。
（３）幼虫が中齢(体長約２cm)以上になるとほ場に分散して食害するため被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果が劣ってくるので、若齢幼虫期に薬剤散布を行う。
（４）薬剤散布に当たっては薬剤が葉裏にも十分かかるよう留意する。また、薬剤散布後は効果を確認するとともに、その後の幼虫の発生に注意する。
（５）大豆及びエダマメにおける主な防除薬剤は、表１、表２のとおりであるが、その他の作物については、各作物に登録のある薬剤で防除する。最新の登録情報は、農林水産省ホームページの農薬登録情報提供システム(https://pesticide.maff.go.jp/)で確認できる。また、薬剤抵抗性の発達のおそれがあるため、同じ系統の薬剤の連用は避ける。
（６）薬剤の散布にあたっては農薬使用基準を順守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。

表１　大豆におけるハスモンヨトウの主な防除薬剤　　令和6年8月26日現在

農薬の名称	農薬使用基準（使用方法『散布』のみ）			IRACコード
	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	
トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	3A
トレボン粉剤ＤＬ[1)]	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	3A
アタブロン乳剤	2000～4000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	15
ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
マッチ乳剤	2000~3000倍	収穫7日前まで	2回以内	15
マトリックフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	18
ロムダンフロアブル	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	18
ロムダンゾル	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	18
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
フェニックスフロアブル	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
プレバソンフロアブル５	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	28
ベネビアOD[2)]	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
ヨーバルフロアブル	5000倍～10000倍	収穫7日前まで	2回以内	28
ディアナＳＣ	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	5
アニキ乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	6
デルフィン顆粒水和剤[1)]	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	ー	11A
トルネードエースＤＦ	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	22B
グレーシア乳剤	2000～3000倍	収穫14日前まで	2回以内	30
プレオフロアブル	1000～2000倍	収穫7日前まで	2回以内	UN

１）豆類（種実）で登録あり。
２）ＴＰＮを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害のおそれがあるので使用しない。

表２　エダマメにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤　　令和6年8月26 日現在

農薬の名称	農薬使用基準（使用方法『散布』のみ）			IRACコード
	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	
トレボン乳剤	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	3A
トレボン粉剤ＤＬ	3～4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	3A
アタブロン乳剤	2000～4000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
カスケード乳剤	4000倍	収穫前日まで	2回以内	15
ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	15
マッチ乳剤	2000~3000倍	収穫前日まで	2回以内	15
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	28
フェニックスフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	28
プレバソンフロアブル５	4000倍	収穫3日前まで	3回以内	28
ベネビアOD[3)]	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	28
ヨーバルフロアブル	5000倍～10000倍	収穫前日まで	3回以内	28
アニキ乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	6
アファーム乳剤	1000～2000倍	収穫3日前まで	2回以内	6
グレーシア乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内	30
ブロフレアＳＣ	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	30
ディアナSC[1)]	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	5
デルフィン顆粒水和剤[2)]	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	ー	11A
マトリックフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	18
トルネードエースＤＦ	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	22B
プレオフロアブル[1)]	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内	UN

１）豆類（未成熟）で登録あり。
２）野菜類で登録あり。
３）ＴＰＮを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害のおそれがあるので使用しない。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

（参考）この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/　です。